

令和5年度島根県立大学人間文化学部

3年次編入学試験

保育教育学科 専門科目

(試験時間 60分)

注 意 事 項

- ① 開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- ② 開始の合図があった後、問題冊子のページを確認し、欠落、不揃い、印刷不鮮明の箇所などがあった場合には、直ちに申し出てください。
別紙の解答用紙も同様に確かめてください。

問題冊子	20 ページ
解答用紙	1 枚

- ③ 受験番号・氏名を解答用紙の所定の欄に記入してください。
- ④ 解答は、すべて解答用紙の所定の欄に記入してください。

問 1. 以下の文は、法令の一部である。出典として正しい組み合わせを 1 ～ 4 から一つ選び、解答欄に数字を記入せよ。(5 点)

- A この法律で、学校とは、幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、大学及び高等専門学校とする。
- B 父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする。
- C すべて国民は、法律で定めるところにより、その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する。

【組み合わせ】

	A	B	C
1	教育基本法	日本国憲法	学校教育法
2	学校教育法	教育基本法	日本国憲法
3	日本国憲法	学校教育法	教育基本法
4	日本国憲法	教育基本法	学校教育法

問 2. 以下の文のうち、現行の『学校教育法』の第二十三条の内容を示したものとして、下線部について適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを 1 ～ 5 から一つ選び、解答欄に数字を記入せよ。(5 点)

第二十三条 幼稚園における教育は、前条に規定する目的を実現するため、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

- 一 健康、安全で幸福な生活のために必要な基本的な習慣を養い、身体諸機能の A 調和的発達を図ること。
- 二 集団生活を通じて、喜んでこれに参加する態度を養うとともに家族や身近な人への信頼感を深め、自主、自律及び協同の精神並びに B 規範意識の芽生えを養うこと。
- 三 身近な社会生活、生命及び C 環境に対する興味を養い、それらに対する正しい理解と態度及び思考力の芽生えを養うこと。
- 四 日常の会話や、絵本、D 童謡等に親しむことを通じて、言葉の使い方を正しく導くとともに、相手の話を理解しようとする態度を養うこと。
- 五 音楽、身体による表現、造形等に親しむことを通じて、豊かな感性と表現力の芽生えを養うこと。

【組み合わせ】

	A	B	C	D
1	×	○	○	○
2	○	○	○	×
3	×	×	○	○
4	○	×	×	×
5	○	○	×	×

問3. 以下の文のうち、現行の『教育職員免許法』に照らして、教員免許状について適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを1～5から一つ選び、解答欄に数字を記入せよ。(5点)

- A 免許状は、普通免許状、特別免許状及び臨時免許状とする。
- B 普通免許状及び特別免許状は、その免許状を授与した授与権者の置かれる都道府県においてのみ効力を有する。
- C 臨時免許状は、その免許状を授与したときから3年間、効力を有する。
- D 教育職員で、その有する相当の免許状が二種免許状であるものは、相当の一種免許状の授与を受けるように努めなければならない。

【組み合わせ】

	A	B	C	D
1	○	×	○	○
2	○	○	○	×
3	○	×	○	×
4	×	×	○	×
5	×	○	×	○

問4. 以下の文は、現行の『幼稚園教育要領』第2章ねらい及び内容「人間関係」の内容を抜粋したものである。下線部について適切な記述には○を、不適切な記述には×を、該当する解答欄に記入せよ。(各1点×5)

- A 先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。
- B 友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う。
- C 友達と楽しく活動する中で、個別の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする。
- D 友達と楽しく生活する中で秘密の大切さに気付き、守ろうとする。
- E 高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。

問 5. 以下の文のうち、現行の『保育所保育指針解説』第 4 章子育て支援「2 保育所を利用している保護者に対する子育て支援」の内容を示したものとして、下線部について適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを 1～5 から一つ選び、解答欄に数字を記入せよ。(5 点)

保育所保育が、保護者との緊密な連携の下で行われることは、A 保護者の利便性を考慮し、子どもの福祉を重視した保護者支援を進める上で極めて重要である。

家庭と保育所が互いに理解し合い、その関係を深めるためには、保育士等が保護者の置かれている状況を把握し、思いを受け止めること、保護者が保育所における B 保育の意図を理解できるように説明すること、保護者の疑問や要望には C 対話を通して誠実に対応すること、保育士等と保護者の間で子どもに関する情報の交換を細やかに行うこと、子どもへの愛情や成長を喜ぶ気持ちを伝え合うことなどが必要である。

そのための手段や機会として、連絡帳、保護者へのお便り、送迎時の対話、保育参観や保育への参加、親子遠足や運動会などの行事、入園前の見学、個人面談、家庭訪問、保護者会などがある。このような手段や機会を子育て支援に活用する際には、保護者の子育てに対する D 誇りや熱意を支えられるように、内容や実施方法を工夫することが望まれる。

【組み合わせ】

	A	B	C	D
1	○	×	×	○
2	×	○	×	×
3	×	○	○	×
4	×	×	○	×
5	○	○	×	○

問 6．以下の文は、『保育所における自己評価ガイドライン（2020 年改訂版）』（厚生労働省）の一部である。空欄に入る適切な語句の組み合わせを 1 ～ 5 から一つ選び、解答欄に数字を記入せよ。（5 点）

個々の保育士等による保育内容等の自己評価は、保育の記録などに基づく子どもの（ A ）や育ちの理解を踏まえて行われます。保護者や他の職員との対話を通じて得た子どもの姿や保育の捉え方などとも照らし合わせつつ、指導計画等とそれに基づく実践を振り返り、保育の目標に対して改善すべきことや充実を図っていきたいことを見出した上で、今後の保育において目指す（ B ）と、それに向けた取組の具体的な目標や手立てを検討します。自己評価の結果は、次の指導計画等に反映されます。

保育士等がこうした保育内容等の自己評価に取り組むことは、自身の保育の（ C ）や課題を明確化していくことにもつながります。さらに、こうした自己評価の結果をもとに、今後習得すべき知識や技術を確認し、施設長等の管理職と相談しながら研修計画の作成・見直しを行ったり、重点的に取り組む活動や実践研究のテーマについて検討したりすることが考えられます。自己評価の取組とその結果の活用を通じて、保育士等一人一人の資質・（ D ）の向上が図られることが重要です。

【組み合わせ】

	A	B	C	D
1	内面	方向性	良さ	専門性
2	行動	方向性	良さ	能力
3	内面	方向性	弱み	能力
4	行動	到達点	弱み	専門性
5	内面	到達点	弱み	専門性

問 7. 以下の文は、「家庭養育優先原則」を記している現行の『児童福祉法』第三条の二の条文である。A～Eに当てはまる適切な語句の正しい組み合わせを1～5から一つ選び、解答欄に数字を記入せよ。(5点)

国及び地方公共団体は、児童が（ A ）において心身ともに健やかに養育されるよう、児童の（ B ）を支援しなければならない。ただし、児童及びその保護者の心身の状況、これらの者の置かれている環境その他の状況を勘案し、児童を家庭において養育することが困難であり又は適当でない場合にあっては児童が家庭における養育環境と同様の（ C ）環境において（ D ）的に養育されるよう、児童を家庭及び当該養育環境において養育することが適当でない場合にあっては児童ができる限り良好な（ E ）環境において養育されるよう、必要な措置を講じなければならない。

【組み合わせ】

	A	B	C	D	E
1	家庭	発達	養育	専門	個別的
2	地域	保護者	施設	継続	個別的
3	家庭	保護者	養育	継続	家庭的
4	家庭	発達	施設	継続	家庭的
5	地域	保護者	養育	専門	家庭的

問 8．以下の文は、厚生労働省の「体罰等によらない子育ての推進に関する検討会」がまとめた『体罰等によらない子育てのために』からの抜粋であり、体罰とは何かについて書かれた部分である。A～Eに当てはまる適切な語句の正しい組み合わせを 1～5 から一つ選び、解答欄に数字を記入せよ。（5 点）

たとえ（ A ）のためだと親が思っても、身体に、何らかの（ B ）を引き起こし、又は不快感を（ C ）にもたらす行為（罰）である場合は、どんなに（ D ）ものであっても体罰に該当し、（ E ）で禁止されます。

【組み合わせ】

	A	B	C	D	E
1	しつけ	外傷	意図的	軽い	道徳
2	成長	苦痛	意図的	教育的	道徳
3	しつけ	苦痛	継続的	教育的	法律
4	成長	外傷	継続的	軽い	法律
5	しつけ	苦痛	意図的	軽い	法律

問 9．以下の文は、児童虐待についての記述である。適切な記述には○を、不適切な記述には×を、該当する解答欄に記入せよ。（各 1 点× 5）

- A 児童虐待の種類は、「身体的虐待」、「性的虐待」、「心理的虐待」、「ネグレクト」、「経済的虐待」の 5 種類である。
- B 学校の教員や保育所の保育士などは、児童虐待を発見しやすい立場にあることを自覚し、児童虐待の早期発見に努めなければならない。
- C 児童虐待の通告は、現場を目撃するか、当該児童からの証言や医師の診断書など、信頼性の高い証拠を基に行うのが原則である。
- D 家庭内において児童の面前で行われる一方の親からもう一方の親への暴力は、法的には児童への心理的虐待として扱われる。
- E 令和 2 年度における全国の児童相談所での児童虐待相談対応件数の総数は、初めて 2 万件を超えた。

問 10. 以下の文は、現行の『児童福祉法』に関する記述である。適切な記述には○を、不適切な記述には×を、該当する解答欄に記入せよ。(各 1 点×5)

- A 児童福祉法は、第一次世界大戦で父親を失った子どもの福祉の推進を目的として 1922 年に制定された。
- B 児童福祉法は、児童の育成責任を国民、保護者、国及び地方公共団体に認めるが、第一義的責任を負うのは保護者であるとしている。
- C 児童福祉法は、児童が保護の対象であることは認めているものの、児童の権利保障に関しては言及していない。
- D 保育所は、児童福祉法が成立する以前から存在していたため、児童福祉法は保育所を児童福祉施設に分類していない。
- E 児童福祉法における「保護者」とは、「親権を行う者、未成年後見人その他の者で、児童を現に監護する者」であり、親でなくても保護者になりうる。

問 11. 以下の文は、バイステックによる『ケースワークの原則』の一部である。A～E
に当てはまる適切な語句の正しい組み合わせを 1～5 から一つ選び、解答欄に数字を記
入せよ。(5 点)

- ア クライエントを（ A ）として捉える。
イ 援助者は自分の（ B ）を自覚して吟味する。
ウ クライエントを一方的に（ C ）しない。
エ クライエントの自己（ D ）を促して尊重する。
オ （ E ）を保持して信頼感を醸成する。

【組み合わせ】

	A	B	C	D	E
1	隣人	深層	非難	知覚	秘密
2	個人	感情	非難	決定	秘密
3	隣人	感情	非難	知覚	自尊心
4	個人	感情	称賛	決定	秘密
5	個人	深層	称賛	決定	自尊心

問 12. 以下の文は、現在における障害児者の福祉制度に関する記述である。適切な記述には○を、不適切な記述には×を、該当する解答欄に記入せよ。(各 1 点×5)

- A 療育手帳は、知的障害を対象として交付される手帳である。
- B 児童扶養手当は、障害児を養育する親のみに支給される手当である。
- C 放課後等デイサービスは、児童福祉法で定められている。
- D 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)が定める社会的障壁とは、段差などの物理的な障壁に限定される。
- E 現在、障害児者の入所施設は、障害種別ごとに細分化している。

問 13. 以下の文は、『児童の権利に関する条約』に関する記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを 1 ～ 5 から一つ選び、解答欄に数字を記入せよ。(5 点)

- A 「児童の権利に関する条約」は、子どもに対して、自由に自己の意見を表明する権利や結社の自由と平和的な集会を持つ自由を権利として認めている。
- B 「児童の権利に関する条約」は、1989 年の国連総会で採択された。
- C 日本は国内法が未整備のため、今現在も「児童の権利に関する条約」を批准していない。
- D 「児童の権利に関する条約」の草案を国連に提出した国は、ポーランドである。
- E 「児童の権利に関する条約」は、別名「ジュネーブ宣言」とも呼ばれる。

【組み合わせ】

	A	B	C	D	E
1	○	○	○	×	×
2	○	○	×	○	×
3	×	○	×	○	×
4	×	×	○	○	○
5	○	×	×	×	○

問 14. 以下は対人・社会面の発達についての用語である。発達段階として並べた場合に適切な順序を1～5から一つ選び、解答欄に数字を記入せよ。(5点)

- ア 共同注意
- イ ふり遊び
- ウ 第一次反抗期
- エ 誤信念課題の理解
- オ 社会的微笑

【組み合わせ】

- 1 オ→ア→イ→エ→ウ
- 2 ア→オ→イ→エ→ウ
- 3 オ→ア→イ→ウ→エ
- 4 オ→ア→ウ→エ→イ
- 5 ア→オ→エ→イ→ウ

問 15. 以下の文は、中枢神経と末梢神経のしくみと機能について記述したものである。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを1～5から一つ選び、解答欄に数字を記入せよ。(5点)

- A 前頭葉は運動に関連する領野と思考に関連する領野である。
- B 視神経は脳神経の一つであり、中枢神経に分類される。
- C 脊髄は呼吸などの生命維持に関連する部位である。
- D 頭頂葉は空間知覚や触覚に関連する領野である。
- E 自律神経には交感神経と副交感神経がある。

【組み合わせ】

	A	B	C	D	E
1	○	×	×	○	○
2	○	○	○	×	○
3	×	○	○	×	×
4	○	○	×	○	○
5	×	×	○	○	×

問 16. 以下の文は、政策レポート「発達障害の理解のために」（厚生労働省）に記されている内容である。発達障害の理解として適切な記述には○を、不適切な記述には×を、該当する解答欄に記入せよ。（各 1 点×5）

- A 発達障害は、知的な遅れを伴う場合から知的な遅れのない人まで広い範囲を含んでいる。
- B 広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害だけが発達障害である。
- C 発達障害は一つの個性なので、配慮しないままでもそのうち何とかなる。
- D 自主性尊重が大事で、大人があれこれ手を出すのは良くない。
- E 発達障害の子がパニックを起こしたら、大勢で協力して止めにいくのがよい。

問 17. 以下の文は、注意欠如多動症（ADHD）の症状に関する記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを1～5から一つ選び、解答欄に数字を記入せよ。（5点）

- A 不注意または多動性－衝動性の症状のうちいくつかは15歳になる前から必ず存在していた。
- B その症状が、統合失調症、または他の精神病性障害の経過中に起こるものである。
- C 自閉スペクトラム症と合併する場合がある。
- D 手足をそわそわと動かしたり、身をよじったりすることが多い。
- E 家あるいは学校などの特定の場所に限って、その症状が現れる。

【組み合わせ】

	A	B	C	D	E
1	○	×	×	×	○
2	×	×	○	○	○
3	○	○	○	×	×
4	×	×	○	○	×
5	○	○	×	×	×

問 18. 以下の用語は、感染症の主な感染経路と病原体の組み合わせである。不適切な組み合わせを一つ選び、解答欄にアルファベットを記入せよ。(5 点)

【組み合わせ】

- | | | | |
|---|-------|-------|------------|
| A | 飛沫感染 | ----- | SARS-CoV-2 |
| B | 空気感染 | ----- | 肺炎球菌 |
| C | 接触感染 | ----- | ロタウイルス |
| D | 経口感染 | ----- | アデノウイルス |
| E | 蚊媒介感染 | ----- | マラリア |

問 19. 以下の文は、現行の『保育所における感染症対策ガイドライン』（厚生労働省）に関する記述である。適切であれば○を、誤りであれば×を、解答欄に記入せよ。（各1点×5）

- A 病原体が体内に侵入してから症状が現れるまでには、ある一定の期間があり、これを「感染可能期間」という。
- B インフルエンザ、ノロウイルス感染症等においては、ほぼ症状が消失した状態となった後でも患者がウイルスを排出していることがある。
- C 保育所内で飼育している動物が保有する細菌（例えば、カメ等のは虫類が所有するサルモネラ属菌）等が人に感染することもある。
- D サラダ、パン等の調理の過程で加熱することが少ない食材にノロウイルス等の病原微生物が付着することがある。
- E 予防接種は、ワクチンの接種により、あらかじめその病気に対する免疫を獲得させ、感染症が発生した場合に罹患する可能性を減らしたり、重症化しにくくしたりするものである。

問 20. 以下の文は、現行の『保育所保育指針解説』第3章健康及び安全「2 食育の推進」の内容の一部である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを1～5から一つ選び、解答欄に数字を記入せよ。（5点）

- A 子どもが自ら意欲をもって食に関わる体験を積み重ねていくことを重視して取り組む。
- B 食は、子どもが豊かな人間性を育み、生きる力を身に付けていくために重要である。
- C 食事の提供を含む食育計画を個別的な計画に基づいて作成し、その評価及び改善に努める。
- D 保育所における食育は、健康な生活の基本としての「食を営む力」の育成に向け、その基礎を培うことを目標とする。
- E 子どもが地域の特定の食文化に関心をもつことができるようにする。

【組み合わせ】

	A	B	C	D	E
1	○	○	○	×	×
2	○	×	×	×	○
3	○	○	×	○	×
4	×	○	○	×	○
5	×	×	○	○	○